事例No.	1788
公表年度	R4
団体の属性	指定都市
団体名	岡山県岡山市

事例区分	公営企業

タグ	・下水道事業 ・公共施設の集約化等 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	広域化等

事例内容・タイトル

公共下水道の流域下水道への編入・接続

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【岡山県岡山市】
公共下水道の流域下水道への編入・接続

広域化等　下水道事業

岡山県岡山市下水道河川局下水道経営部下水道河川計画課

● 取組概要

施設の老朽化による更新需要の増大や、今後の人口減少に伴う有収水量の減少などの課題に対応するため、市の処理区を県の処理区へ統合した。

◆総事業費　建設費　1,108,000千円（接続管きょ、ポンプ整備等）
（流通団地処理区：201,000千円、芳賀佐山処理区：907,000千円）
除却費　未定（流通団地、芳賀佐山両処理区ともに処分方針等検討中）

◆背景

- 市が管理する公共下水道である流通団地処理区は昭和59年度、芳賀佐山処理区は昭和53年度から処理を開始しており、処理場の耐震化・長寿命化のための更新費用に多額の費用が見込まれたことに加え、今後の人口減少に伴い有収水量が減少傾向にあるため、経費の削減が喫緊の課題であった。
- この課題を解決するため、公共下水道の2処理区を岡山県児島湖流域下水道の児島湖処理区へ統合することとした。

◆具体的内容

- 流通団地処理区は浄化センターを廃止して自然流下で、芳賀佐山処理区は浄化センターを廃止してポンプ場化し、どちらも児島湖処理区までの管きょを整備することで、流通団地処理区、芳賀佐山処理区を児島湖処理区へ編入・接続した。

◆効果

- スケールメリットを活かすことにより、維持管理費及び事務費が削減された（平成30年度～令和3年度で平均約57,000千円/年）。
- 芳賀佐山浄化センターの廃止により、職員を常駐させる必要がなくなった（委託常駐職員：通常営業時間中で3名→0人）。

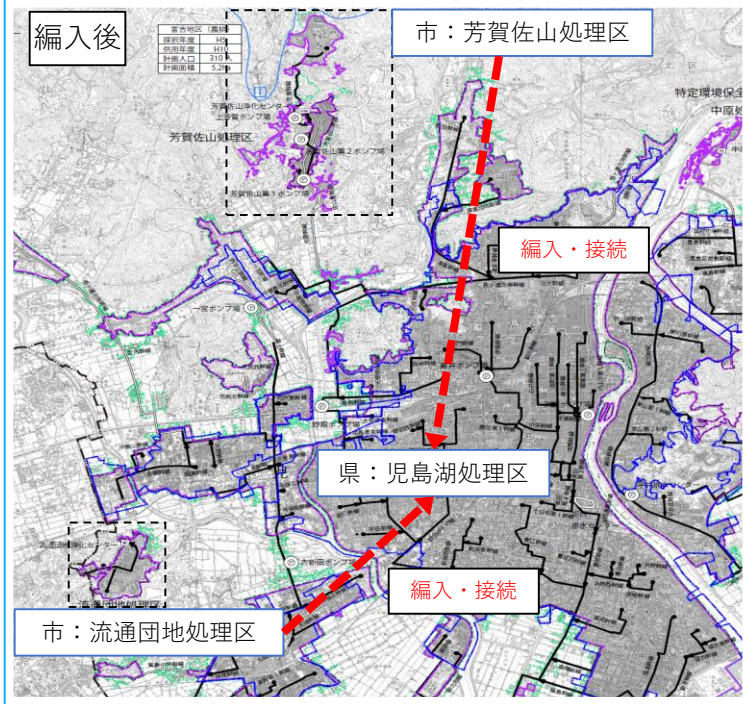
● 取組のポイント

- 管きょの新設等に係る費用を考慮してもなお、編入せず現状維持とした場合に比べ、事業費を軽減できる見込みとなったため、実施を決定した。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　702,073 人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　789.9 km^2（令和4年1月1日時点）
- 処理区域内人口　480,377人（令和3年度決算）

処理区の位置図



● 取組のスケジュール

- 令和元年度に流通団地浄化センターを廃止。
- 令和3年度に芳賀佐山浄化センターを廃止。

● 今後の展望

- 厳しい財政状況下においても安定した下水道事業の運営を可能とするため、農業集落排水施設の統廃合など更なる営業費用の抑制を検討する。